

令和6年度

高崎市社会福祉協議会概要

(令和5年度実績)

目 次

第1	高崎市社会福祉協議会の概要	
1	沿革	1
2	所在地	1
3	組織	2
4	財源	4
第2	社会福祉事業	
1	地区社会福祉協議会活動の推進	6
2	高齢者や子育てサロン活動への支援	6
3	「社協たかさき」の発行	6
4	福祉バスの運行	7
5	フードドライブ事業	7
6	法外援護	7
7	子育て支援事業（箕郷）	7
8	地域の会議への参加	8
9	受託事業	8
10	福祉ボランティアの町づくり事業	9
11	生活福祉資金貸付事業	13
12	日常生活自立支援事業	13
13	介護保険居宅介護支援事業・介護予防支援事業	14
14	介護保険等訪問介護事業	14
15	介護保険等通所介護事業	15
16	障害者総合支援訪問介護事業	15
17	障害者総合支援生活介護事業（基準該当生活介護）	16
18	高崎市社会就労センターセルフ楽間	16
19	吉井障害者自立支援センター（こはぎ）	16
20	地域活動支援センター（さくらそう・こぼと）	17
21	児童館事業	18
22	おもちゃの図書館事業	18
23	長寿センター事業	19
24	各団体事務局の運営及び支援	19
25	社会福祉関係実習生の受入れ	19
第3	公益事業	
1	福社会館事業（指定管理）	20
2	高齢者あんしんセンターの運営（受託事業）	20
3	成年後見事業	22
第4	収益事業	
	収益事業	23

第1 高崎市社会福祉協議会の概要

1 沿革

高崎市社会福祉協議会は、都道府県社会福祉協議会の設立が進められていた昭和26年7月に高崎市役所内に発足した。

当協議会が発足する以前にも、私たちの身近から貧困や疾病などの社会悪を排除し、健全な社会を建設すべく民間篤志家や各種団体による福祉活動や福祉施設の経営等が行われていたが、民間の自主的な福祉活動の中核となり、地域福祉を推進する公共性、公益性の高い総合機関としての社会福祉協議会の必要性が高まり、福祉関係者や地域の各団体が集まって、都道府県の発足と足並みを揃え、いち早く活動を開始した。

また、全国的には、昭和37年に「社会福祉協議会基本要項」が制定されたことにより「住民主体の原則」に基づき、市区町村を単位として、調査、広報等の方法により、地域住民の協働促進、関係機関の連絡調整及び社会資源の育成等の組織化活動を行う拠点として位置づけられ、昭和42年3月には、組織の整備と強化を図り、住民による住民のための社会福祉協議会となるべく、社会福祉法人としての認可を得、平成12年には、社会福祉法において「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、その役割が法的にも明文化された。

さらに、行政改革大綱に基づく高崎市の合併に合わせて、高崎市社会福祉協議会も平成18年1月23日には倉渕村、箕郷町、群馬町、新町の各社会福祉協議会と合併し、同年10月1日には榛名町社会福祉協議会、平成21年6月には吉井町社会福祉協議会と合併した。

これに伴い、旧高崎市社会福祉協議会を本所とし、合併前町村の各社会福祉協議会を支所と位置づけ業務を行っている。なお、本所については、平成18年8月の高崎市総合福祉センター開館に伴い現住所に事務所を移転した。

今後もきめ細かい福祉社会の実現に向け、関係諸団体や地域住民のご理解、ご協力をいただきながら、地域福祉を推進する団体として総括的福祉の実現を目指し事業の展開を図っている。

◎法人認可日 昭和42年3月6日

◎法人登記日 昭和42年3月28日

2 所在地

〒370-0065 高崎市末広町115番地1 高崎市総合福祉センター内
TEL027-370-8855 FAX027-370-8856
ホームページ <http://takasaki-shakyo.or.jp>
Eメール 社会福祉課：takasaki-shakyo@bd.wakwak.com
在宅福祉課：zaitaku@takasaki-shakyo.or.jp
ボランティアセンター：volunteer-center@takasaki-shakyo.or.jp
高齢者あんしんセンターたかさき社協：
anshin-center@takasaki-shakyo.or.jp

- ◎ 倉渕支所 〒370-3404 高崎市倉渕町岩氷19番地1 TEL027-378-3440 FAX027-360-9020
Eメール kurabuchi@takasaki-shakyo.or.jp
- ◎ 箕郷支所 〒370-3102 高崎市箕郷町生原74番地 TEL027-371-6868 FAX027-371-2855
Eメール misato@takasaki-shakyo.or.jp
- ◎ 群馬支所 〒370-3521 高崎市棟高町977番地1 TEL027-373-7494 FAX027-373-8090
Eメール gunma@takasaki-shakyo.or.jp
- ◎ 新町支所 〒370-1301 高崎市新町3135番地1 TEL0274-42-5173 FAX0274-42-8414
Eメール shinmachi@takasaki-shakyo.or.jp
- ◎ 榛名支所 〒370-3342 高崎市下室田町900番地1 TEL027-374-5185 FAX027-374-1055
Eメール haruna@takasaki-shakyo.or.jp
- ◎ 吉井支所 〒370-2132 高崎市吉井町吉井486-1 TEL027-387-3187 FAX027-387-3184
Eメール yoshii@takasaki-shakyo.or.jp

3 組 織

社会福祉協議会は、住民主体の理念に基づき関係機関や団体と連携し、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現をめざしている。

また、役員等は、区長、民生委員児童委員、婦人会連合会、医師会、社会福祉施設、保護司会、心身障害者等連絡協議会、公民館運営審議会、ボランティアの代表及び地域団体の代表、行政機関代表、学識経験者などで組織され、市民の声が反映されるようになっている。

(1) 役員等

理 事 15 人(会長、副会長 3 人、常務理事 1 人を含む)

監 事 2 人

評議員 40 人

(2) 役員等の選出区分

(単位：人)

選 出 区 分		理 事	監 事	評議員
1	地区社会福祉協議会の会長及び副会長の職にある者	2		33
2	区長会の会長及び副会長の職にある者	2		
3	民生委員児童委員協議会の会長及び副会長の職にある者	2	1	
4	社会福祉に関係する団体の代表者	2		4
5	社会福祉事業を経営する団体の役職員	2		1
6	ボランティア活動を行う団体の代表者	1		1
7	保健、医療に関する機関の代表者	1		
8	社会教育に関係する団体の役職員			1
9	市社会福祉課長の職にある者	1		
10	学識経験者	2	1	
合 計		15	2	40

(3) 地区社会福祉協議会

旧高崎市区域 27 地区

合併町村区域 6 地区

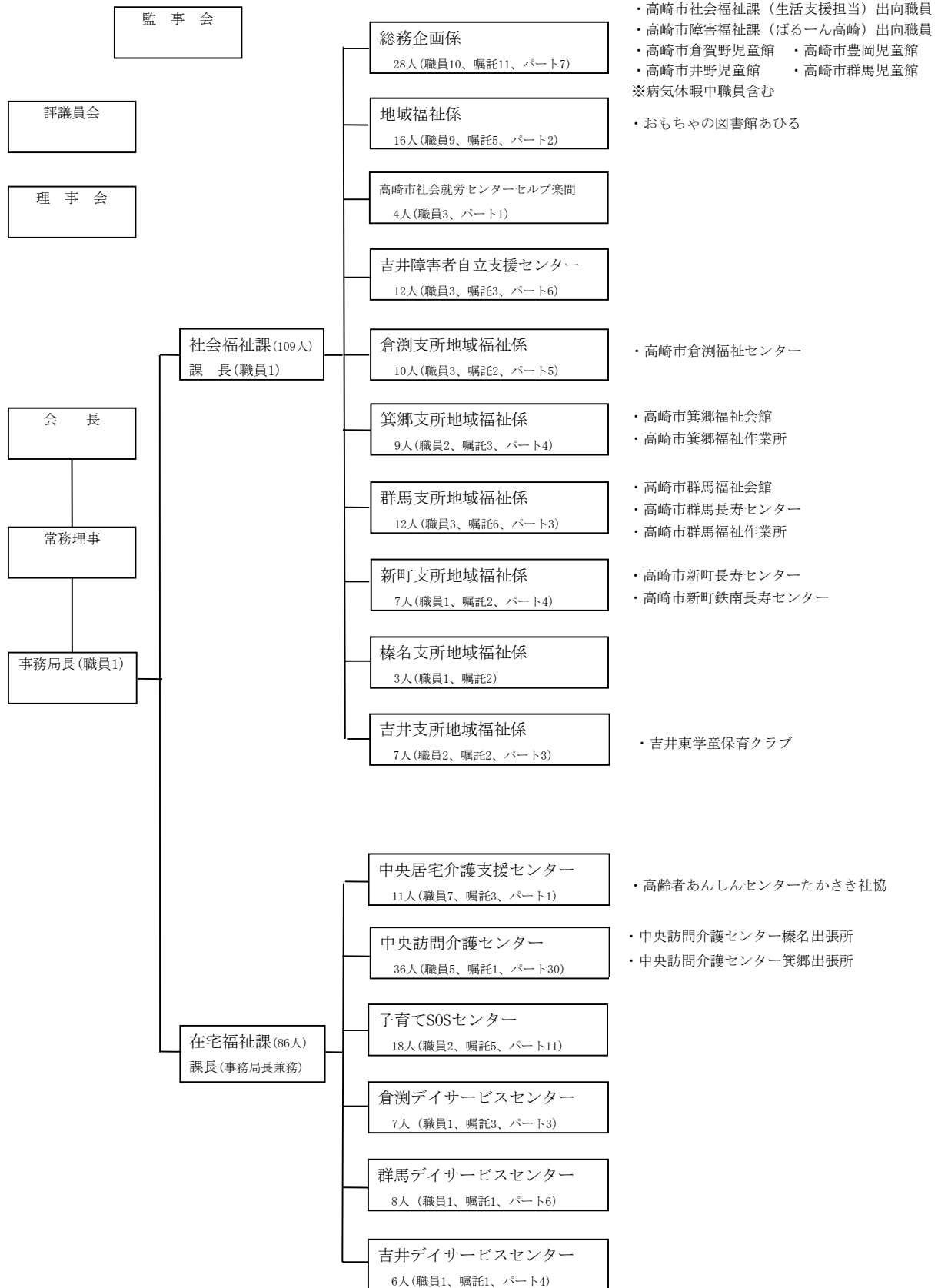
(4) 職員(令和 6 年 4 月 1 日現在)

事務局長以下職員総数 196 人

内訳 職員 56 人 (市派遣 3 人含む)、嘱託 50 人、パート 90 人

高崎市社会福祉協議会組織図及び職員配置

(令和6年4月1日現在)



4 財 源

社会福祉協議会は民間団体ですが、公的責任を負って地域福祉を推進する団体という側面を併せもっていることから、その財源は、県、市からの補助金や委託金、指定管理事業収入、市民の皆さんからの会費や寄附金、また、介護保険事業者としての介護報酬などにより賄われている。

一方、寄附金の使い途としては、寄せられた方々の意思を尊重し広く福祉事業全般に活用すると共に、高齢者、障害者、児童福祉などへの指定寄付として活動を支援している。

また、会費については、ふれあい・いきいきサロンや子育てサロン、地区社会福祉協議会等への活動を支援するための助成金などとして広く社会福祉事業全般に運用している。

なお、職員の人件費については、公的補助金及び介護保険報酬等で賄うことを原則としている。

(1) 予算 (令和5年度) 単位：円

会 計 名	予 算 額
社会福祉事業会計	993,073,000
公益事業会計	132,275,000
収益事業会計	9,222,000
合 計	1,134,570,000

※内部取引相殺消去 144,334,000円を含む

(2) 福祉基金

設 立 昭和60年4月1日

現在額 176,611,000円 (令和6年3月31日)

(3) 会員体制(会費収入)

本会の目的に賛同する個人、団体及び施設等から納入された会費は、ふれあいサロンや地区社協への助成や法外援護等へ支出し地域福祉の向上のため、有効に活用した。

ア 一般会費

	町内会数	4年度世帯数	4年度収入	5年度世帯数	5年度収入
本所	342	116,170世帯	12,346,922円	117,050世帯	12,047,092円
倉渕	8	1,223世帯	231,400円	1,210世帯	226,600円
箕郷	41	7,559世帯	1,249,200円	7,646世帯	1,264,800円
群馬	30	17,707世帯	2,388,200円	18,025世帯	2,422,000円
新町	10	4,900世帯	920,200円	4,915世帯	921,400円
榛名	62	6,801世帯	1,242,600円	6,783世帯	1,235,200円
吉井	36	8,855世帯	1,406,850円	8,867世帯	1,399,500円
合計	529	163,215世帯	19,785,372円	164,496世帯	19,516,592円

イ 特別・施設会費、団体会費

区 分	会 費 収 入	備 考
特別会費	731,000円	・市長寿会連合会 ・市地区更生保護女性会 ・市ボランティアグループ連絡協議会 ・市民生委員児童委員協議会 ・民生委員児童委員 724名 ・市保護区保護司会 ・市中心身障害者等連絡協議会 ・市地区婦人会連合会
施設会費	403,000円	・保育園64園 ・社会福祉施設339ヵ所
団体会費	215,000円	・地区社会福祉協議会33地区
合 計	1,349,000円	

(4) 金品の寄附

寄せられた寄附金は、その意思を尊重し各種事業に活用するとともに福祉基金に積立を行った。また、寄附物品は施設や団体等に配布し有効に活用した。

ア 一般寄附（現金）

区 分	寄附金額	寄附件数
善意銀行（基金）	2,371,502円	47件
ふれあいの広場	255,000円	18件
児童館	120,000円	4件
合 計	2,746,502円	69件

イ 指定寄附（現金）

区 分	4年度末 残 高	5年度 金額	5年度 件数	5年度支出 金額(件数)	5年度末 残 高	備 考
障害者	85,883,329円	107,892円	1件	100,220円 (1件)	85,891,001円	障害者団体へ助成
高齢者	1,773,496円	3,000円	1件	0円	1,776,496円	
児 童	387,919円	10,000円	1件	0円	397,919円	
その他	78,606円	0円	0件	0円	78,606円	
合 計	88,123,350円	120,892円	3件	100,220円 (1件)	88,144,022円	
利 息		1,724円			1,724円	障害者区分へ繰入

ウ 物品の受入れ

物 品	数 量	備 考
タオル	4,459枚	
その他	—	車いす移動車、車いす、テレビ、紙オムツ、子ども用衣類、座布団、玩具、医療用品、雑貨、マスク、衛生用品、靴、寝具、ソファーセット、文房具、電気カーペット、アクリルたわし

(5) 共同募金配分金事業

共同募金推進計画に基づき、高崎市共同募金委員会を通じて本会に配分された配分金を地域福祉の充実を目的とした事業に活用した。

ア 共同募金配分金

社協配分金額	配分金内訳	摘 要
11,843,000円	6,587,195円	ふれあいサロン助成金
	5,255,805円	社協広報発行費用（3回分）

イ 歳末たすけあい募金配分金

配分金額	摘 要
1,173,000円	生活困窮者支援団体助成 フードドライブ事業

第2 社会福祉事業

1 地区社会福祉協議会活動の推進

地区社会福祉協議会は、地域住民が自分たちの生活する地域の福祉課題やニーズを主体的に捉え問題解決に向け自発的に取組む組織で、区長、民生委員児童委員、ボランティア等が中心になってさまざまな活動を通じて、市内33全地区で地域福祉づくりを進めている。

新型コロナウイルスの影響により予定した事業が実施できないなどの影響もあったが、感染に配慮した上でできる活動を地区ごとに実施した。

主な活動実績

活動区分	主な内容
研修会等	サロン情報交換会など
見守り活動	友愛訪問、一声かけ運動、ひとり暮らし高齢者友愛事業、防犯パトロールなど
その他の活動	高齢者に寄せたメッセージ冊子の作成、地区社協だより発行など

2 高齢者や子育てサロン活動への支援

高齢者のふれあい・いきいきサロンや、ふれあい・子育てサロンを新規で立ち上げるための相談や情報の提供、活動メニューに対する相談支援、活動費に対する助成などの支援を行った。

(1) ふれあい・いきいきサロン活動費の助成

	サロン数	助成金	摘要
4年度	344カ所	14,430,500円	42,000円×343カ所、24,500円×1カ所
5年度	344カ所	14,399,000円	42,000円×342カ所、24,500円×1カ所 10,500円×1カ所

(2) ふれあい・子育てサロン活動費の助成

	サロン数	助成金	摘要
4年度	28カ所	1,144,500円	42,000円×27カ所、10,500円×1カ所
5年度	24カ所	1,008,000円	42,000円×24カ所

3 「社協たかさき」の発行

地域住民に広く事業の周知及び社会福祉に対する啓発を行い、本会と地域住民が連携を密にして社会福祉の向上を図ることを目的に広報を発行した。

発行状況

項目	回数	発行日及び部数
発行回数	4回	8月 1日号 (第96号) 165,800部
		10月 1日号 (第97号) 165,800部
		12月15日号 (第98号) 165,800部
		3月15日号 (第99号) 165,800部

4 福祉バスの運行

地区社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会、登録のボランティア団体等が研修会等でバスを使用し、社会福祉の増進に寄与することを目的に本所、群馬支所で福祉バスを運行した。

区 分		市社協	地区社協	民児協	福祉団体	ボラン ティア 団体	合計
本所	回数	1回	45回	1回	0回	4回	51回
	人員	24人	959人	23人	0人	85人	1,091人
群馬	回数	0回	40回	1回	1回	7回	49回
	人員	0人	608人	12人	12人	93人	725人

5 フードドライブ事業

「もったいないをありがとうへ」をスローガンに企業や法人等に呼びかけ、家庭で余っている食品を募り、食料の確保が困難な団体や子ども食堂、生活困窮者支援を行う団体に寄附を行った。

ア 第37回高崎ふれあいの広場での実施

- ・日 時 令和5年10月28日（土）
- ・場 所 もてなし広場
- ・内 容 ブースを設けて食品を受け入れるとともに事業の周知を図った。
- ・寄 附 数 637点

イ 社協窓口受付及び配布状況

- ・寄附数 13,024点（159件）の食料品を受入れた。
- ・生活困窮者支援団体や子ども食堂9団体に配布を行った。

6 法外援護

無銭旅行者援護費の貸与や、罹災した世帯へ火災の見舞金として支給を行った。

法外援護支給状況

区 分		支給件数	返済件数
無銭旅行者 援護費	本 所	21件	3件
	新 町	1件	0件
	吉 井	0件	0件
	計	22件	3件
罹災援護	全 域	23件	—

7 子育て支援事業(箕郷)

0歳から3歳までのお子さんと保護者を対象に、親子で自由に遊べる場所「ひまわり」を毎月2回（毎月第1・3火曜日）開催した。子育ての経験を持つボランティアが育児相談を受けたり、保護者同士の交流の場、情報交換の場にもなっている。

- ア 開催回数 23回
- イ 参加延人数 90組（192人）
- ウ ボランティア延人数 69人
- エ 内 容 ベビービクス&キッズビクス、読み聞かせ、写真撮影

会、専門職の講話、おもちゃ遊び、身長・体重計測、季節行事（七夕、クリスマス会、お雛様）など

8 地域の会議への参加

高齢者あんしんセンターが主催する地域の会議や、高崎市が推進する地域包括ケアシステムの生活支援体制整備事業の会議に地区担当職員が参加し、住民や関係機関等が行うニーズ把握や支え合いの仕組みづくりに協力した。

参加状況

	本所	倉渕	箕郷	群馬	新町	榛名	吉井	計
4年度	238回	11回	11回	18回	19回	13回	14回	324回
5年度	215回	9回	15回	25回	17回	13回	45回	339回

9 受託事業

(1) 第46回たかさき市民福祉大会（高崎市と共催）

市民が共に支え合い、住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進することを目的として、式典と講演を実施した。

なお、式典では永年、福祉分野におけるボランティアとして貢献された方々や社会福祉事業に多額の金品をご寄附いただいた方への表彰及び地域の福祉増進に努められた団体に感謝状を贈呈した。

- ㊦ 実施日 令和6年2月10日（土）
- ㊧ 会場 高崎市文化会館
- ㊨ 内容 第1部 【式典】 高崎市福祉ボランティア顕彰
高崎市社会福祉協議会会長表彰・感謝
第2部 【講演】 演題 ころを楽にする生き方
講師 神職・元アナウンサー 宮田 修 氏
- ㊩ 受賞者数 高崎市福祉ボランティア顕彰 個人 7人、団体 6団体
高崎市社会福祉協議会会長表彰 個人 1人、団体 5団体
同 上 会長感謝 団体 3団体
- ㊪ 参加者 一般市民、地区社協関係者、民生委員児童委員、ボランティア等
- ㊫ 参加人数 450人

(2) 吉井東学童クラブの経営（吉井）

保護者が仕事等により昼間留守になる家庭の児童を対象として、遊びや生活の場を提供し、放課後児童の健全育成を行った。

利用状況

	開所日数	在籍数	年間利用延人数
4年度	252日	22人	3,289人
5年度	255日	20人	3,757人

(3) 子育てSOSサービス事業

高崎市から受託した「高崎市子育てSOSサービス事業」として、妊娠期から

就学前児童の保護者の精神的・身体的負担の軽減のため、要請に基づいてヘルパーを派遣し、育児・家事等の必要なサービスを行った。

利用状況

	利用者世帯	年間利用延人数
4年度	279世帯	2,420人
5年度	285世帯	3,133人

(4) 女性元気サポート事業

生活や仕事、子育て、介護、DV被害などの悩みや不安を抱える女性を支援するため、関係団体と協働し、相談窓口の開設や生理用品の配布、居場所の提供を行った。

相談等状況

	相談受付件数	同行支援件数	生理用品 配布件数	居場所 開催回数	居場所 参加人数
4年度	243件	9件	383件	12回	88人
5年度	162件	2件	289件	12回	79人

10 福祉ボランティアの町づくり事業

市民がともに手を取り合い心のふれあうまちづくりを推進するため、ボランティアセンターを運営し、各種ボランティア講座の開催や啓発行事の実施、情報提供、ボランティアコーディネートを行いボランティア活動の活性化を図った。

(1) 主催行事等

期日	行事名	内容	会場	参加者
10月28日	第37回高崎ふれあいの広場	地区社会福祉協議会、ボランティアグループ、福祉団体、各種団体、行政等が一堂に会し、心ふれあう町づくりを推進するために広場を催した。	もてなし広場	3,000人
3月5日	ボランティア講座	傾聴もしくは買物代行ボランティアとして、1月現在活動されている方に、講義・ディスカッション等を通して、今後の活動に活かせる知識・技術を学んで頂くと共に、ボランティア同士の交流作りを行った。	市総合福祉センター	33人

(2) ボランティア相談・コーディネート

ボランティアセンターに寄せられた相談に対応し、助言や情報提供を行った。
また、ボランティアを必要とする団体や施設からのニーズを受け、ホームページへの掲載やコーディネートを行った。

	4年度	5年度
相談件数	550件	336件
ニーズ受付数	38件	38件

(3) ボランティアグループ登録状況

市内で活動するボランティアグループの登録を受付け、活動状況を把握した。

	4年度	5年度
グループ数	138団体	169団体
人数	5,249人	6,389人

(4) ボランティアグループ活動補助金の交付

社会福祉活動の増進を目的として市内で活動するボランティアグループに対して、活動費の一部を補助した。

	補助団体数	金額
4年度	51団体	974,300円
5年度	55団体	1,025,950円

(5) 車いす等対応車両貸出サービス事業

高齢者や障害者の通院、通所、買物などの日常生活や、家族旅行や冠婚葬祭などの外出を支援するため、車いす等対応車両の貸出サービスを実施した。

貸出件数

	本所	箕郷	群馬	新町	榛名	吉井	合計
4年度	100件	85件	63件	34件	33件	65件	380件
5年度	79件	89件	76件	28件	70件	55件	397件

(6) 福祉用具貸出事業(車いすの貸出)

一時的に車いすが必要な方に対して、車いすの貸出を行った。

車いす貸出申請件数(団体貸与含む)

	本所	倉渕	箕郷	群馬	新町	榛名	吉井	合計
4年度	205件	2件	27件	67件	19件	30件	43件	393件
5年度	195件	4件	28件	70件	18件	33件	55件	403件

(7) 福祉教育の推進

福祉教育を推進する中で、幼少期や児童期に福祉への理解と関心を高めることが期待されている。依頼のあった学校等に、福祉用具の貸出や職員が出向いての体験実施の協力を行った。

(単位:回)

区分	貸出講師派遣数	内容
本所	小学校 24	車いす貸出、高齢者疑似体験用具貸出、簡易点字器貸出、アイマスク貸出
	高等学校 1	
	大学 3	
箕郷	小学校 2	高齢者疑似体験学習、車いす体験学習

群馬	小学校	7	車いす貸出、高齢者疑似体験用具貸出 車いす体験学習、高齢者疑似体験学習、ブラインド ウォーク体験学習
新町	小学校	3	新町長寿センター施設見学、高齢者疑似体験学習
榛名	小学校	5	車いす体験学習、ブラインドウォーク体験学習、講話
吉井	小学校	2	ブラインドウォーク体験学習、簡易点字器貸出

(8) 買物困難者等への支援

ア 高齢者等買物代行事業

日常的な買物に困難を抱えている高齢者等を対象に、登録ボランティアによる日常生活用品の買物を代行する高齢者等買物代行事業を実施した。

利用者それぞれの状況に合わせてボランティアとのマッチングを行い、週に1回から月に1回の頻度で買物代行を実施した。

利用者と定期的に顔を合わせるボランティアならではの気づきが安否確認をはじめ、その他の生活課題の把握へつながり、その後も行政や高齢者あんしんセンター等と協力、連携しながら他のサービスに繋げていくなどの支援を行った。

実施状況

項目	4年度	5年度
登録ボランティア数	195人(男性42人、女性153人)	180人(男性35人、女性145人)
利用者登録数	174人	193人
延べボランティア稼働数	547人	637人
延べ利用者数	718人	725人
延べ代行稼働件数	2,612件	2,933件

イ 倉渕地域高齢者買い物支援事業

倉渕地域内の買い物等弱者対策のため、交通空白地有償運送の制度により自宅から倉渕地域内の商店や金融機関、医療機関等まで、有償運転ボランティアが送迎するサービスを行った。

○運行日時及び運行地域 毎週月～金曜日 9:00～17:00(倉渕全域)

実施状況

項目	4年度	5年度
運転ボランティア	7人	7人
利用登録者数	83人	74人
運行回数	484回	477回
延べ利用者数	707人	695人

(9) 傾聴ボランティア派遣事業

日頃から人と接する機会の少ない高齢者に対し、話し相手をしながら時間を共有することで、より充実した日常生活を過ごせるよう支援するため、傾聴ボランティアを派遣した。

実施状況

	地域	合計
4年度	利用者実数	23人
	訪問回数	155回
5年度	利用者実数	27人
	訪問回数	187回

※ 傾聴ボランティア登録者数 95人

(10) 各種保険の加入促進

ボランティア活動中のさまざまな事故による怪我や損害賠償責任を補償するボランティア活動保険や行事用保険等への加入を促進するとともに、事故対応等の事務手続きを行った。

	ボランティア活動保険	行事用保険	福祉サービス総合補償	送迎サービス	サロン保険	事故取扱
4年度	6,308人	62件	15件	2件	337件	7件
5年度	6,180人	62件	15件	1件	376件	16件

(11) 収集物の受け入れ

学校や企業、団体等から寄せられたエコキャップ等の収集物を受入れ、有効に活用した。

品目	数量等	活用内容
エコキャップ	1,085kg	回収業者を通じて換金され、世界の子どもにワクチンを送る運動に協力
使用済み切手	段ボール箱 3箱	県内の障害者福祉施設に送り、利用者の余暇活動の制作材料として活用
アルミ缶プルタブ	70kg	換金し、本会の車いす貸出事業用の車いす購入費用として積立し、過年度分と合わせて車いす1台を購入

(12) 災害時に向けた取り組み

- ・学校法人群馬パース大学との連携事業として、市内で災害が発生し、災害ボランティアセンターの設置が決定となった際を想定した災害ボランティアセンター設置訓練を行った。
- ・高崎市総合防災訓練への参加
- ・令和6年能登半島地震災害支援として職員1人を被災地へ派遣し、支援活動に参加

1 1 生活福祉資金貸付事業

関係機関と協力し、援助が必要な低所得者世帯等に資金貸付や相談支援を行った。
また、生活困窮者自立相談支援事業における支援調整会議は書面にて開催された。
なお、市において、生活保護申請者で緊急的に一時的な生活費を必要とする方に貸付を行う、つなぎ資金貸付事業では、市に原資を預けている。

(1) 償還戸別訪問件数 108件

(2) 支援調整会議出席回数 12回

(3) 生活福祉資金貸付（特例貸付を除く）

	貸 付	
	件数	金 額
4年度	41件	47,450,000円
5年度	49件	49,219,000円

(4) つなぎ資金貸付件数 7件（貸付金額51,000円）

1 2 日常生活自立支援事業

高崎市に在住する認知症高齢者や知的障害者、精神障害者など判断能力の不十分な人を対象に、契約に基づき日常的な金銭管理の援助や通帳・印鑑の預かり等を適切に行った。

(1) 相談件数

	4年度	5年度
認知症高齢者	3,028件	3,501件
精神障害者	2,802件	3,061件
知的障害者	815件	838件
その他	82件	65件
合 計	6,727件	7,465件

(2) 契約状況及び課税状況の内訳

	年度別契約締結件数		実利用者件数(3月末現在)	
	4年度	5年度	4年度	5年度
認知症高齢者	29件	18件	76件	70件
精神障害者	17件	7件	50件	53件
知的障害者	4件	4件	27件	29件
合 計	50件	29件	153件	152件
課税世帯	2件	0件	9件	7件
非課税世帯	26件	11件	70件	68件
生活保護世帯	22件	18件	74件	77件
合 計	50件	29件	153件	152件

(3) 生活支援員登録者数 29人(任期:令和5年4月1日～令和8年3月31日)

(4) 生活支援員雇用者数 29人

1.3 介護保険居宅介護支援事業・介護予防支援事業

(1) 介護や支援を必要としている高齢者が、心身の状況や置かれている環境、希望に応じて、適切な介護サービスが利用できるように、介護計画の作成や必要な関係機関との連絡調整を行った。また、市内居住者の介護保険の認定調査を行った。

なお、令和4年度より北部居宅介護支援センターを中央居宅介護支援センターに統合し、拠点機能の集約を図った。

事業所別実施状況(延人数) (単位:人)

		中央居宅介護支援センター	
		4年度	5年度
居宅介護支援		2,563件	2,468件
受託	介護予防プラン	291件	289件
	介護予防ケアマネジメント	235件	251件
	要介護認定訪問調査	78件	91件

(2) 高齢者が自立した生活ができるよう、要支援1・2と認定された人やサービス事業対象者への計画書を作成した。

プラン等作成状況

サービス種類	項目	区分	4年度	5年度
介護予防支援	予防プラン作成数	直営	149件	187件
		委託	1,257件	1,222件
介護予防ケアマネジメント	総合事業プラン等作成数	直営	141件	165件
		委託	1,175件	1,089件

1.4 介護保険等訪問介護事業

(1) 介護保険サービス

ホームヘルパーが利用者宅を訪問し、身体介護や生活援助等を行った。

事業所別実施状況(延人数)

	中央訪問介護センター		北部訪問介護センター	
	4年度	5年度	4年度	5年度
訪問介護 ※1	703人	584人	438人	318人
介護予防訪問介護相当※2	473人	431人	372人	321人

※1 対象者は要介護認定者

※2 対象者は要支援認定者及び総合事業対象者

- (2) その他サービス
道路運送法の規定に基づき、事業所所有の車両で目的地まで有償で送迎した。

実施状況(延人数)

	北部訪問介護センター(榛名)	
	4年度	5年度
福祉有償運送 ※	38人	1人

※対象者は、総合事業対象者、要支援認定者及び要介護認定者

1.5 介護保険等通所介護事業

利用者に食事や入浴等の介護サービスや機能訓練を行った。

事業所別実施状況(延人数)

	倉淵デイサービスセンター		群馬デイサービスセンター		吉井デイサービスセンター	
	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度
通所介護	139人	102人	236人	222人	292人	261人
介護予防通所介護 ※	149人	135人	103人	108人	69人	70人

※ 介護予防・日常生活支援総合事業の予防通所介護相当サービスが含まれる。対象者は要支援認定者及び総合事業対象者（高齢者あんしんセンターの基本チェックリストによる審査によって該当した方）

1.6 障害者総合支援訪問介護事業

(1) 障害福祉サービス

日常生活に支障のある障害者(児)の家庭に、ホームヘルパーを派遣し、自分のできる事はしてもらい、出来ない事を支援することにより、障害の状況や家族の状況等に応じて在宅での生活を援助した。

事業所別実施状況(延人数)

	中央訪問介護センター		北部訪問介護センター	
	4年度	5年度	4年度	5年度
居宅介護 ※1	338人	321人	105人	92人
同行援護 ※2	45人	48人	-	-

※1 対象者は、身体・精神・知的障害者(児童含む)であり、高崎市より支給決定されたサービス支給量の範囲内で契約し、身体介護・家事援助・通院介助サービス等を行った。

※2 対象者は、視覚障害者であり、高崎市より支給決定されたサービス支給量の範囲内で契約し、一緒に買い物や散歩等を提供。

(2) 移動支援事業

指定障害福祉サービス事業所として、高崎市から受託し、市内に居住している障害者及び障害児を対象に高崎市移動支援事業実施要綱に基づいて、外出支援を行った。

事業所別実施状況(延人数)

	中央訪問介護センター		北部訪問介護センター	
	4年度	5年度	4年度	5年度
移動支援(受託)※	12人	13人	0人	0人

※利用者は、主に精神障害者や知的障害者

17 障害者総合支援生活介護事業(基準該当生活介護)

障害者総合支援法に基づき、地域で生活介護を受けることが困難な障害者に基準該当生活介護(デイサービス)として、利用者が自立した日常生活を営むことができるよう支援及び介護並びに機能訓練等を行った。

群馬デイサービスセンター 利用者 2人

18 高崎市社会就労センターセルフ楽間

(1) 就労継続支援B型

一般企業に就労及び適応することが困難な障害を有する方に対し、福祉的就労の場や生産活動の機会を提供し、個別支援計画に沿った就労継続支援B型サービスを通じて利用者の自立支援に努めた。

ア 利用定員 20人(在籍数:17人)

イ 開所日数 243日

ウ 延べ利用人数 3,965人

エ 就労支援事業内容(2チーム体制で実施)

- ・組立、分解作業(ダンボール緩衝材、洋菓子用箱、水道メーター等)
- ・検品作業(カー用品、アウトドア用品等)
- ・パッケージング作業(カーテン部品、ネジ、アウトドア用品、建材、ホビー、子ども服等)
- ・清掃、除草作業(公園、ソシラス等)

オ 就労支援事業状況

上記生産活動等により、7,380,080円の売上高を得て、必要経費を控除した6,605,599円を利用者に工賃として支給した。

カ 利用者の慰労や相互の親睦を図るため、納会を開催した。

キ 利用者の健康管理及び防災体制の強化のため、利用者健康診断を1回、防災訓練を2回実施した。

19 吉井障害者自立支援センター(こはぎ)

(1) 就労継続支援B型

一般企業に就労及び適応することが困難な障害を有する方に対し、福祉的就労の場や生産活動の機会を提供し、個別支援計画に沿った就労継続支援B型サービスを通じて利用者の自立支援に努めた。

ア 利用定員 20人(在籍数:19人)

イ 開所日数 243日

ウ 延べ利用人数 3,684人

エ 就労支援事業内容

- ・製造、販売作業(花卉の生産販売、花壇管理)
- ・組立作業(自動車部品、入浴剤袋詰め等)

- ・清掃作業、除草作業(吉井福祉センター)
- オ 就労支援事業状況

上記生産活動等により10,572,176円の売上高を得て、必要経費を控除し7,172,903円を利用者に工賃として支給した。
- カ 利用者家族と連携を図るため、「家族連絡会議」を2回開催した。参加家族が少ないため令和6年度は1回開催とする。(2月)
- キ 利用者の慰労や相互の親睦を図るため、慰労会を開催した。また、地域との交流を図るため「福祉センター・こはぎ祭」を予定していたが、コロナ禍のため中止とした。
- ク 利用者の健康管理及び防災体制の強化のため、利用者健康診断を1回、防災訓練を2回実施した。

(2) 生活介護

常時介護や援助を必要とする障害を有する方に対し、入浴・排泄及び食事時等の介護、創作又は生産活動の機会の提供及びその他必要な支援や訓練を実施し、個別支援計画に沿った生活介護サービスの提供を通じて、利用者の自立支援に努めた。

- ア 利用定員 10人(在籍数:10人)
- イ 開所日数 243日
- ウ 延べ利用人数 1,934人
- エ 生活介護事業内容
 - ・食事、排泄時等の個々に必要な介護
 - ・入浴(月・木)、音楽活動(金)、スノーズレン、図書館(月1)、レクリエーション、歩行訓練・外気浴、外出等
 - ・日常生活・身体機能等の維持向上訓練
 - ・生産活動(組立作業等)、創作活動(マット編み等)
- オ 利用者家族と連携を図るため、「家族連絡会議」を1回開催した。参加家族が少ないため令和6年度も1回開催とする。(2月)
- カ 利用者の教養・娯楽活動の一環として、誕生会、その他の季節行事を開催した。また、地域との交流を図るため「福祉センター・こはぎ祭」を開催した。
- キ 利用者の健康管理及び防災体制の強化のため、利用者健康診断を1回、防災訓練を2回実施した。

20 地域活動支援センター(さくらそう・こぼと)

利用者が生活訓練や作業を通じて社会生活に対応できるよう援助した。

(1) 開所日数及び利用者在籍状況

施設名	定員	在籍者数	開所日数	年間利用人数
箕郷福祉作業所	20人	12人	240日	2,487人
群馬福祉作業所	10人	6人	243日	1,125人

(2) 作業内容

- ア 箕郷福祉作業所(さくらそう)
 - ・就労支援 ホチキス針箱詰、張り子検品、布団生地分別リサイクル作業、野菜パッケージング作業、箕郷福祉会館清掃、オリジナル製品製作
 - ・自立支援 生活訓練、みんなの会(年12回)
 - ・行事、レクリエーション事業

体操指導(年12回)、音楽指導(月1~2回)、季節行事(七夕、レクリエ

- ・その他 (ーション大会、クリスマス会、豆まき、ひな祭り)、お楽しみ会
保護者会(年2回)、運営委員会兼保護者会(年2回)

イ 群馬福祉作業所(こぼと)

- ・就労支援 ホチキス針箱詰・袋詰、オリジナル製品(マット・巾着・雑巾等)製作、群馬福祉会館除草清掃、物品袋入れ、シール貼り作業
- ・行事、レクリエーション事業
花見、七夕、残暑払い、クリスマス会、節分、ひな祭り
- ・その他 家族会(10月)、他障害者事業所の作業見学、個別面談実施(3月)

2.1 児童館事業

児童が健全で安全な遊びを通じて、心身の発達を図り豊かな情操を育むことを目的に運営する。年齢が異なる児童が交流する中、多様な遊びや活動に参加できるよう工夫し、地域での子育ての拠点として活用されている。

今年度は各館が自館の実情に沿った「安全計画」を策定した。感染症対策も含め、安全について徹底した見直しを行い、来館者が安心、安全に利用ができるよう環境を整えて運営を行った。

利用状況

施設名	年度	開催日数(日)	児童(人)	保護者(人)	合計(人)	主な事業内容
倉賀野児童館	4年度	293日	4,076人	2,425人	6,501人	おもちゃの日、季節の行事、親子遊び、誕生会、子育て講座、卓球、習字・絵画・工作教室等
	5年度	293日	4,941人	3,859人	8,800人	
豊岡児童館	4年度	293日	5,377人	3,390人	8,767人	
	5年度	293日	6,236人	3,971人	10,207人	
井野児童館	4年度	293日	7,245人	6,207人	13,452人	
	5年度	293日	8,273人	6,843人	15,116人	
群馬児童館	4年度	293日	6,529人	5,477人	12,006人	
	5年度	293日	6,525人	5,408人	11,933人	

2.2 おもちゃの図書館事業

発達の遅れが心配な子どもたちが、たくさんのおもちゃと豊かな遊びを通じて言語等の発達や社会性が育まれるよう支援した。

ア 開設場所 高崎市総合福祉センター1階

イ 開館日 毎週月曜日～土曜日

ウ 利用状況

	4年度		5年度	
	児童	保護者等	児童	保護者等
利用者人数	519人	473人	650人	474人
開館日数	292日		292日	

2 3 長寿センター事業

60歳以上の市民の健康づくりを推進するとともに、各教養教室開催等により福祉の増進を図った。

利用状況

施設名	年度	開館日数	利用人数	実施事業
群馬長寿センター	4年度	285日	30,410人	各種教養教室 介護予防体操 介護予防教室等
	5年度	293日	34,140人	
新町長寿センター	4年度	240日	6,811人	
	5年度	240日	7,186人	
新町鉄南長寿センター	4年度	241日	5,323人	
	5年度	241日	5,245人	

2 4 各団体事務局の運営及び支援

- (1) 高崎市共同募金委員会の運営
- (2) 高崎市民生委員児童委員協議会事務局の運営
- (3) 倉渕、箕郷、群馬4地区、新町、榛名及び吉井地区民生委員児童委員協議会の支援
- (4) 地区社会福祉協議会事務局の運営(倉渕、箕郷、群馬、新町、榛名、吉井)
- (5) 高崎市ボランティアグループ連絡協議会事務局の運営
- (6) 高崎地区更生保護女性会への支援
- (7) 高崎地区更生保護女性会支部への支援(箕郷、群馬)
- (8) 高崎市ふれあい・いきいきサロン推進連絡会事務局の運営
- (9) 地区長寿会連合会への支援(倉渕、箕郷、新町、榛名、吉井)
- (10) 箕郷町身体障害者団体及び箕郷地区の各ボランティア団体への支援
- (11) 高崎市身体障害者団体連合会群馬支部及び群馬地区ボランティアグループ連絡協議会への支援
- (12) 新町母子寡婦会への支援
- (13) 榛名地区身体障害者団体、榛名地区ボランティアグループ連絡協議会への支援
- (14) 吉井町ボランティアの会、吉井町身体障害者連合会及び吉井心身障害児(者)父母の会への支援

2 5 社会福祉関係実習生の受入れ

社会福祉関係の大学や専門学校、看護学校等から実習生を受け入れ、将来の地域福祉を担う学生等に対し、社会福祉協議会の業務について実習指導を行った。

実習受入れ状況

内 容	受入数
ソーシャルワーク実習	3人
児童保育関係実習	5人
生徒職場体験研修(高校生)	3人
産業現場実習	1人
老年看護学実習	87人

第3 公益事業

1 福祉会館事業(指定管理)

福祉センター2館と福祉会館2館の指定管理を市から受け、施設の有効利用に努めた。

利用状況

施設名	4年度		5年度	
	開館日数	利用者人数	開館日数	利用者人数
倉渕福祉センター	311日	40,349人	314日	35,556人
箕郷福祉会館	293日	2,781人	293日	2,899人
群馬福祉会館	293日	36,432人	293日	38,426人
吉井福祉センター	293日	15,347人	295日	14,631人

2 高齢者あんしんセンターの運営(受託事業)

高崎市にある日常生活圏域46ヶ所のうち、北・東・西地区を担当し、地域住民の保健福祉の向上及び福祉の増進を目的に、地域住民の心身の健康保持及び生活の安定のための支援を包括的に行った。

(1) 総合相談支援業務

地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、積極的に地域に出向き、相談を受け、適切な保健・医療・福祉サービス関係機関や制度利用につなげる支援を行った。

項目		4年度	5年度
相談件数合計(延べ)		4,429件	5,100件
相談方法	電話	3,291件	3,795件
	来所	256件	303件
	訪問	806件	891件
	その他	76件	111件
主に認知症に係る相談(延べ)	65歳以上	399人	229人
	65歳未満	4人	6人

(2) 権利擁護業務

地域の住民や民生委員、介護支援専門員などの支援だけでは十分に問題解決ができない、適切なサービス等につながる方法が見つからない等の困難な状態にある高齢者が、地域において安心して尊厳ある生活を行うことができるように支援した。

延べ件数

項目		4年度	5年度
権利擁護に関する相談		10件	40件
相談内容	成年後見	10件	17件
	措置の支援	0件	0件
	地域福祉権利擁護	0件	0件
	高齢者虐待	0件	24件
	消費者被害	0件	0件
	その他	0件	0件

※相談内容は重複分を含む。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

高齢者が住み慣れた地域で暮らすことができるよう、介護支援専門員、主治医、地域の関係機関等多職種の機関が連携をし、個々の高齢者の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的なケアマネジメントが実現できるように後方支援を行った。

	ケアマネ個別 相談件数	支援事業 (研修会等)実施
4年度	769件	3件
5年度	1,006件	2件

(4) 地域ケア会議の推進

介護支援専門員、地域関係者、介護サービス事業者、保健医療関係者等の他職種が参加し、多角的視点から検討を行い、課題解決に向けて地域ケア会議を開催した。

	地域ケア会議
4年度	2件
5年度	1件

(5) 認知症施策の推進

認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるように、認知症専門医療機関や介護サービス従事者等、地域において認知症の人を支援する関係機関との連携を図った。また、地域住民が認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう啓発活動を行った。

	認知症サポーター 養成講座	認知症についての 講話
4年度	1回	7回
5年度	2回	6回

(6) 在宅医療・介護連携の推進

在宅医療に関する相談について、在宅医療・介護連携拠点へ情報を提供し、連携を図る。また、市と協働して在宅医療・介護サービスの提供体制の整備を推進した。

(7) 生活支援サービスの体制整備

第2層協議体(北・東・西地区)では、日常生活圏域等における各地域の支え合いの創出に向けて協議体を設置した。社会資源やニーズに関する情報収集、生活支援の担い手の養成、資源・サービスの開発や関係者のネットワーク化に向けての検討会を月1回の定例会として開催した。

開催状況

開催名	開催日	参加人数
第54回協議体会議	令和5年4月19日	11人
第55回協議体会議	令和5年5月17日	8人
第56回協議体会議	令和5年6月21日	7人
第57回協議体会議	令和5年7月19日	7人

第58回協議体会議	令和5年8月16日	11人
第59回協議体会議	令和5年9月20日	8人
第60回協議体会議	令和5年10月18日	8人
第61回協議体会議	令和5年11月15日	13人
第62回協議体会議	令和5年12月20日	12人
第63回協議体会議	令和6年1月17日	9人
第64回協議体会議	令和6年2月21日	10人
第65回協議体会議	令和6年3月13日	6人

(8) 一般介護予防事業

筋力体操やストレッチ等の介護予防に取り組むことによって、自立の促進を図り、社会参加意欲を高めた。

	事業名	開催数	延べ参加人数	備考
4年度	元気はつらつ教室	26回	286人	2ヶ所にて開催
5年度	元気はつらつ教室	26回	326人	2ヶ所にて開催

(9) 地域が実施する活動への支援

サロン等の充実に向けて支援する中で、介護予防の普及啓発を行った。

	地区サロン
4年度	51回
5年度	59回

(10) 地域の関係機関との連携

地域関係者や介護サービス事業者、保健医療関係者等との連携を図り、地域の高齢者の見守りや支援についての情報交換や高齢者本人の課題解決について話し合いを行った。

	地域連携会議	運営推進会議
4年度	5回	0回
5年度	5回	7回

※ 運営推進会議は、新型コロナウイルスの影響により各事業所開催を中止。

(11) 在宅福祉サービスに関する業務

高齢者が介護保険外の高齢者在宅サービスを適切に利用できるように支援した。

項目	4年度	5年度
高齢福祉サービス申請手続き代行	124件	145件

3 成年後見事業

日常生活自立支援事業の利用者などが、判断能力が低下した後にも引き続き住み慣れた地域で安心して生活できるよう法人後見の受任を行った。

受任件数 1件（類型：後見）

第4 収益事業

収益事業

財源確保のため収益事業を行い、健全な経営と利益の効率化に努めた。

種 別	場 所	従業員数	備 考
売 店 経 営	倉渕福祉センター	2人(兼務)	通年
自 動 販 売 機 設 置	2ヶ所2台	-	通年 中央公民館 1台 染料植物園 1台
土 地 建 物 賃 貸	片岡町3丁目	-	障害者グループホーム用の 土地・建物をNPO法人に賃貸